



鳥取県

臓器・アイバンクだより



2016.7
No.

15

～グリーンリボンは移植医療のシンボルです～

鳥取県臓器・アイバンクでは、移植医療のことを県民の皆様に理解していただくための普及啓発活動や、県内の医療施設における移植医療に関する院内体制整備の支援、円滑な臓器提供・移植のための各関係機関との調整を行っています。

平成27年度の活動をご報告します。

第8回グリーンリボン公開講座を開催

平成27年10月18日(日)県民ふれあい会館で開催し、112名が参加されました。今年は、腎臓移植医による進歩した透析療法と腎臓移植のお話、ドナー(提供者)家族様の強いお気持ち、心臓移植患者様の闘病中と移植後の生活の違いや元気になった喜びの気持ちをお聞きました。そして、毎年3年生に移植医療について講義をさせていただいている地元中学校の吹奏楽部の皆様に素敵な演奏を披露していただきました。



★ 移植医療を考える講演会とコンサート ーつなぐ命の大切さを考えるー

講演1

■ 透析療法の進歩と これからの腎移植

吉田 克法 氏
(奈良県立医科大学附属病院
泌尿器科・透析部 教授)

要旨

末期腎不全の治療として、透析療法と腎臓移植があります。全国では約32万人位の透析患者がおられるのが現状です。昔は透析の機械が粗雑な作りでしたので非常に予後が悪くなく、透析をしたらほとんどの方が5年程度で亡くなっていました。その後、薬や透析の膜が改良されたことで、だんだんと生存率が良くなり、今では生命予後も非常に良くなっています。今や透析歴20年以上の人でも沢山おられます。血液浄化療法はまだまだ進んでいくと思います。透析をしたらもう終わりだという時代は、もう遥か昔となりました。

透析でも予後が良いのですが、実は移植にはかきません。透析患者さんには高齢者も多いですが、透析導入患者と移植者の生存率を比較すると、腎臓移植者のほうが良好です。透析患者よりも移植を受けた患者のほうが合併症も少なく、移植のほうが長生きできているのです。

腎移植には、生体腎移植と献腎移植があります。生体腎移植の腎提供者(ドナー)について、腎臓をひとつ提

供しても将来大丈夫なのかというと、一般の方と生体腎ドナーの生存率はほとんど変わりませんので、ドナーの生命も安全であり、術後は大丈夫といえます。

最近よく行われている移植としては、血液型不適合移植があります。例えば、A型からB型の人への移植というのは、昔はできませんでした。しかし、今では特殊な薬や血漿交換を含めた前処置をすることにより腎移植は可能となっています。また、高齢の患者さんや、動脈硬化や石灰化がある場合は、昔は腎移植が難しかったのですが、現在は、移植手術の向上により腎移植することができるようになってきました。

ただし、臓器を移植しただけでは拒絶反応が起きます。移植を受けた場合、その腎臓をやっつけてしまおうという体の防御反応があり、これを免疫反応、拒絶反応といいます。その結果、移植された腎臓は免疫反応でダメージを受けてしまいます。それに対して、免疫抑制剤という薬によって、体内の免疫反応を弱め、腎臓がうまく働くようにするわけです。このとき、完全に免疫力をゼロにしてしまうと、風邪の菌やウイルスを殺す力も無くなります。昔は、免疫抑制剤があんまり良くなくて、移植後に感染症で亡くなることがあるという時代がありましたが、今は新しい免疫抑制剤が開発されてきて、移植後の生存率もはるかに良くなりました。

現在は、末期の腎不全になっても、透析療法や腎移植で普通の生活ができるような時代になってきました。そして、合併症や予後の点から腎臓移植は最も有効な治療法であると思っています。

臓器提供者の家族として

ドナーのご家族様

要旨 私の両親は共に戦争を経験しており、様々な死に直面しました。そんな家族でしたから、命についても話し合いができていたように思います。

私が持っていた臓器提供意思表示カードを母に見せた時も「それで助かる命があるならいいことだね」などの話をしていました。その傍らで兄が「痛い、嫌いな」なんて言っていましたが、「痛い、死んだらわかれへんやん」と言うのと「そりゃそーや」と笑っていました。

そんな兄が事故に遭い、病院に行くと、医師から回復は極めて困難であることが伝えられました。

我が家では家族で話し合い、「回復とは、“見舞いの人や事実自体を、本人が認識できるかどうか”であり、その意味での回復が見込めない場合、延命措置はやめよう」と結論付けておりました。

しかし、我が家で考えている「回復」の見込みは医師から「ほぼ無い」と言われたので、兄の死を覚悟し、必要以上の延命措置の辞退を申し入れました。その翌日、臓器提供できる事と、それは後から取り消しもできる事を聞きました。

家族で命の終わりについては話し合いましたが、臓器提供については特に話し合っていないませんでした。また、兄の意思表示カード等も見つからず、兄の直近の意思が明確でないまま、決断をすることになったのです。この観点からは兄の臓器提

供に対しては「×」に近い「？」でした。

私は学校の教員をしており、同和教育や特別支援学級の担当でしたから、人権というものを少しだけは理解しているつもりでした。その観点からは臓器提供には「○」なのです。

しかし、当時大切な仕事がある自分にとって、病院に滞在すべき時間が大変長くなる事や、体の中の何も欠けてない状態で見送るべきではないか、という考えからも「×」なのです。

これらの考えが頭の中をめぐり、限られた時間内に結論を出すのは、正直しんどかったです。最終的には提供できるところを全て提供することとし、兄からの臓器提供は粛々と進んでいきました。

その後、移植コーディネーターさんから、移植を受けた方の一ヵ月後の様子を聞きました。また、心の込められたサンクスレターを頂きました。健康を取り戻され、精神的苦痛からも開放された事の喜びがストレートに伝わってきて、我が家の決断が間違いでなかったと確信することができました。

兄を亡くしたことは勿論悲しいことですが、兄の臓器が病気で苦しんでいる方の役に立っている、このことは、とても嬉しいことです。



心臓移植を体験して

渡邊 源喜 氏

要旨 幼少期に心疾患と診断され、ずっと身体が弱く運動制限がありました。成長とともに病気が悪化し、20代後半には命の危機を感じるほど悪くなったため心臓移植を受ける決意をしました。

移植を決意したすぐ後、移植病棟の看護師長さんが私に対して「自覚してください」と言われました。「人材と資金を投入している医療を受ける以上、患者さんもそれなりの心構え・自覚をして下さい」という厳しい言葉をおっしゃったんです。私はこの時、移植を受ける者が置かれている立場を学びました。

待機中は時間の経過が辛く、友人の仕事や家庭の話を聞くと、焦りと寂しさを感じました。辛い時間の中でどうしたら心豊かに過ごせるかを考え、本を読むことで自分自身が生きている意味やこれからどう生きていくかを考える事ができました。

待機中は、「身体を動かさない」、「人と比べない」、「なぜこうなったのかを考えない」、という3つの「ない」を大原則として過ごしました。待機生活5年余りの後、30代で心臓移植を受ける事ができました。

移植を受けて一番変わったのは、身体を動かせるようになった事です。動くとき身体が温かくなるという事を初めて体験しました。以前は身体が温かくなる前にしんどくなってい

たから、分らなかったんです。ところが、移植後リハビリで歩き回っていた時、身体が温かいなと気づきました。

リハビリはとてもきついと聞いていましたが、きついどころか、むしろとても楽しかったです。小さい頃から身体を動かさないと言われて続けたのが、術後は動け動けと言ってもらえるようになったわけです。こんなに楽しいことはなかったですし、これほどまでに良くなるなんて、どのように感謝の気持ちを示したらいいんだろうと思いながら、リハビリに励みました。

私にとって移植された心臓とは、頂いたものではなく「お預かりしたもの」だと思っています。このお預かりしている心臓と共に、より長く、より心豊かに、移植を受けられた時の気持ちを忘れずに生きていきたいと思っています。ドナーの方、そのご家族の方へ、本当にありがとうございますの言葉以外ありません。また、支えて下さった全ての方に感謝しています。年金・医療・福祉サービスなどの公的制度にも支えられました。

現在は医療機関でソーシャルワーカーとして勤務しています。今後はライフワークとして移植医療に携わる活動を続けていきたいです。

鳥取市立桜ヶ丘中学校 吹奏楽部によるコンサート

「Z 伝説」「オレンジ」「演歌メドレー」など5曲を披露していただき、迫力ある音楽が会場中に響きました。

曲の間には、移植医療について学習していること、感想なども話してくださいました。



参加者の感想

- 現状の移植医療を聞く事ができ、進歩している事がわかった。ドナーの立場と受ける側の両方の気持ちを伺うことができ良かった。そして移植医療で待っている人を救って欲しいと思いました。(60代/医療関係者)
- 臓器提供者のご家族の方の問いかけは、思いがけない視点からの問いかけで、考えさせられました。(30代/一般)
- 心臓移植を受けた方の講演にあった言葉「移植によって心臓を『頂いた』ではなく『預かっている』」に深く感銘しました。(50代/一般)
- 新聞やテレビで他人事のように見聞きしていた臓器提供。我が身が健康である事への感謝と切実な本日の講演には心打たれる事が多かったです。家族が集まった時には真剣にこのテーマについて話し合いたいと思いました。とても良い機会でした。海外へ行かずとも国内でできる様に…本当にそうですね。(60代/一般)
- コンサートで来たのですが、グリーンリボンを知る良い機会でした。(40代/一般)



移植を受けた子ども達の作品展を開催



平成27年12月8日～18日まで、倉吉未来中心において、移植を受けて元気になった子ども達が描いた絵画などを展示しました。偶然会場を訪れた方もご覧くださり、移植手術で命を繋いだ子どもたちの生きる喜びに溢れた作品に感動されていました。12月12日(土)には、「移植医療を考えるワークショップ」を開催しました。ワークショップでは、与えられた環境で懸命に育とうとする多肉植物のお世話をすることを通して、いのちを育てること、いのちを大切にすることを実感していただけるように、多肉植物の寄せ植え教室を行いました。

100名に参加していただき、ご自分で寄せ植えされた作品を大切に持ち帰られました。

平成28年度の開催案内

- | | | |
|------|------------------------|-------------|
| ●東 部 | 鳥取市中央図書館 | 8月 8 日～17 日 |
| ●西 部 | イオンモール日吉津(西館1階ABCマート前) | 8月18日～25日 |
| ●中 部 | 倉吉未来中心 | 8月31日～9月4日 |

多くの皆さまにご来場いただければ幸いです。

作品展来場者の感想

- 心を打たれました。頑張らなくちゃと勇気をもらいました。(50代女性)
- 今日何気なく立ち寄って見せていただき、立派な作品で驚きと、移植という大変な治療を受けながら、懸命に生きておられる人々の作品に元気をもらいました。(60代女性)
- 臓器移植に係る難しさや困難を乗り越えて精一杯生きている人々を見ると勇気が湧いてきます。毎年できれば県内3地区での巡回を希望します。(50代男性)

寄せ植え教室参加者の感想

- 楽しく体験させていただきました。何かで、どこかで、だれかの力になれたらいいなと願います。(50代女性)
- 移植(臓器移植と植物の移植)の掛け合わせ、中々よいアイデアですね。多くの人に臓器移植について知ってほしいですね。(70代女性)
- 家族と出来る限り会話していこうとメッセージを見て改めて思いました。(50代女性)
- 子どもと参加しました。植物を育てることで、命の大切さを感じて欲しいと思って参加しました。(30代女性)

10月は臓器移植普及推進街頭キャンペーン



平成9年10月の『臓器移植法』の施行後、毎年10月は臓器移植普及推進月間です。街頭キャンペーンでは、関係団体やボランティア等総勢141名の方にご協力いただき、意思表示の呼びかけや説明リーフレットの配布を行いました。また、計800名の方に臓器提供意思表示カード・健康保険証・運転免許証等の所持、記入等に関するアンケート回答もいただきました。この調査も今年で18回目となり、当財団の貴重なデータとなっています。

沢山の方のご参加ありがとうございました。ご協力くださいました皆様は以下のとおりです。(順不同、敬称略)

10月4日(日) 東部地区ーイオン鳥取北店 (ボランティア43名)

鳥取砂丘ライオンズクラブ、鳥取いなばライオンズクラブ、鳥取千代ライオンズクラブ、鳥取久松ライオンズクラブ、鳥取北ロータリークラブ、鳥取信用金庫、鳥取県立中央病院、鳥取赤十字病院、吉野・三宅ステーションクリニック、さとに田園クリニック、鳥取看護専門学校、倉吉総合看護専門学校、米子北高等学校、鳥取県薬剤師会、鳥取県看護協会、東部福祉保健事務所、ワンダフルジャパン、鳥取県腎友会、げんきトリピー

10月11日(日) 西部地区ーイオン日吉津店(ボランティア64名)

米子城山ライオンズクラブ、米子中央ライオンズクラブ、大山ライオンズクラブ、湯梨浜みらいライオンズクラブ、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院、米子医療センター、真誠会セントラルクリニック、鳥取大学医学部医学科、鳥取看護専門学校、米子医療センター附属看護学校、米子北高等学校、鳥取県薬剤師会、鳥取県看護協会、西部総合事務所福祉保健局、米子市福祉保健部、個人参加者、鳥取県腎友会、げんきトリピー



10月25日(日) 中部地区ー倉吉未来中心(ボランティア34名)

倉吉打吹ライオンズクラブ、谷口病院、谷口病院附属診療所東伯サテライト、鳥取県立厚生病院、倉吉総合看護専門学校、米子北高等学校、中部総合事務所福祉保健局、倉吉市保健センター、鳥取県薬剤師会、鳥取県看護協会、鳥取県腎友会

地域の皆様のご協力のもと、普及啓発活動を行いました

今年もたくさんの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

参加イベント

鳥取県看護協会主催看護フェア・鳥取大学病院看護の日イベント・米子医療センター看護の日イベント・美保基地航空祭・米子市ふれあい健康フェスティバル2015・鳥取県看護協会総会・鳥取大学医学部錦祭・境みなと寄席など



広 報

- 日ノ丸バス5台にステッカー広告1年間掲載
- 朝日新聞に臓器移植普及推進月間(10月)PR広告を掲載
- 日本海新聞に目の愛護デー(10月10日)PR広告を掲載
- 読売新聞にアイバンク登録に関するPR広告を2回掲載
- 折りたたみJR時刻表へ当財団のPRを掲載



研修会(出前講座) 32回

国立米子工業高等専門学校・鳥取歯科技工専門学校・鳥取大学医学部保健学科・米子医療センター附属看護学校・倉吉総合看護専門学校・鳥取看護高等専修学校・米子看護高等専修学校・鳥取看護専門学校・鳥取大学医学部附属病院在宅医療推進支援室・桜ヶ丘中学校・日野高等学校・倉吉西高等学校・境高等学校・赤碕中学校PTA・羽合小学校PTA・日南病院・鳥取医療センター・境港ライオンズクラブ・境港美保ライオンズクラブ・米子中央ライオンズクラブ・鳥取久松ライオンズクラブ・鳥取砂丘ライオンズクラブ・米子ライオンズクラブ・米子東ロータリークラブ・米子ロータリークラブ・大和設備グループ友和会米子支部・城北地区公民館・彦名公民館・鳥取実業倶楽部・鳥取県警察学校など



鳥取県院内移植コーディネーター会議を開催（6月・2月）

鳥取県院内移植コーディネーターは、県内の7病院の職員31名が鳥取県知事より委嘱されて（任されて）おり、自施設内の移植医療についての窓口的業務、院内体制整備、普及啓発の役割を担っています。会議では、各病院の取り組み発表や研修を行い、院内移植コーディネーターとしてスキルアップ・情報交換の場となっています。

第11回 鳥取県院内移植コーディネーター会議

（平成27年6月30日 鳥取県立厚生病院にて開催）

《内容》

- ①鳥取県院内移植コーディネーター委嘱状交付式（5名）
- ②講演：「脳死下臓器提供における当院の取り組みと実際」
池上 徹則 氏
（倉敷中央病院救命救急センター 救急科主任部長）
- ③報告：「心停止下臓器提供事例報告」
- ④グループワーク：「臓器提供におけるドナー適応判断」
適応判断シートを活用して5例の模擬症例を設定して、
討議を行った。



第12回 鳥取県院内移植コーディネーター会議

（平成28年2月10日 鳥取大学医学部附属病院にて開催）

《内容》

- ①発表：各病院の臓器提供に関する院内体制整備と
1年間の活動報告
- ②報告：「鳥取県臓器移植コーディネーターの取り組みと
平成27年度意識調査報告」
永栄 幸子（鳥取県臓器移植コーディネーター）
- ④講演：「終末期医療と臓器提供」
高橋 絹代 氏
（富山県臓器移植コーディネーター）



鳥取県の移植事情（平成28年3月末現在）

臓器提供累計件数

心停止後の臓器提供 3件
脳死での臓器提供 2件

献腎移植累計件数

（亡くなった方からのご提供による腎臓の移植）
11件

移植希望登録者数(腎臓)

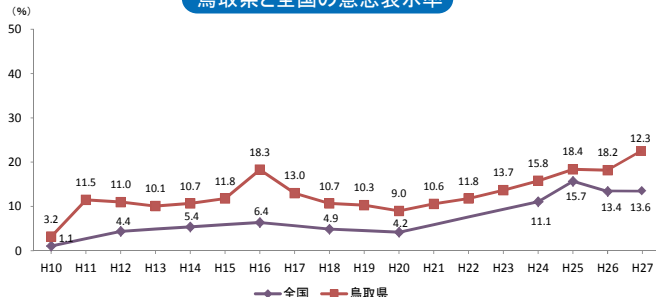
（平成28年1月4日現在）
36人

鳥取県の臓器移植に関する意識調査

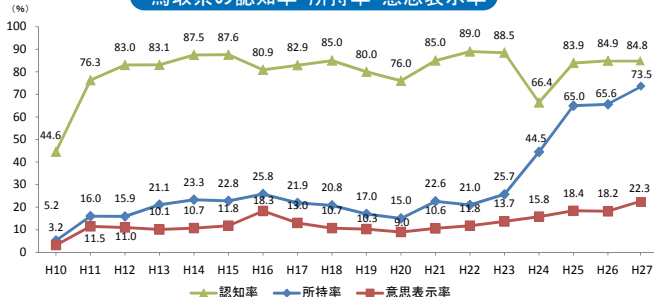
質問項目

- 認知率 … 「臓器提供意思表示カード・意思表示欄のある運転免許証や保険証で臓器提供の意思表示ができることを知っていますか？」
- 所持率 … 「臓器提供意思表示カード・意思表示欄のある運転免許証や保険証を持っていますか？」
- 意思表示率 … 「臓器提供の意を表示していますか？」

鳥取県と全国の意思表示率



鳥取県の認知率・所持率・意思表示率



運転免許証や健康保険証の裏面に意思表示欄ができた事により、所持率が増加してきました。

「提供したい。」「提供したくない。」どちらも尊重されるべき大切なお気持ちです。

皆様がお家族とお話しするきっかけ作りや、臓器移植について正しい知識を持っていただけるよう、啓発活動を行っていきたく思っております。

臓器移植に関する



Q. 臓器移植とは？

- A. 臓器移植とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下し、移植でしか治療できない方と死後に臓器を提供してもいいという方を結ぶ医療です。第三者の善意による臓器の提供がなければ成り立たない医療です。

提供について

Q. 臓器提供するために、事前に必要な手続きはありますか？

- A. 事前の手続きは必要ありませんが、ご自身の提供したいという気持ちを意思表示カード等で表示し、その気持ちをご家族に伝えておくことが大切です。
平成22年7月17日に施行された改正臓器移植法により、本人の意思が不明な場合でもご家族の承諾があれば臓器提供できるようになりましたが、もしもの時に家族が判断に迷わないためにも、臓器提供についての意思を表示しておきましょう。

Q. 臓器提供にかかる費用についての負担はありませんか？

- A. 臓器提供者(ドナー)の側には臓器提供にかかる費用は一切かかりません。また、善意による提供なので葬儀の費用や謝礼が支払われることもありません。

Q. 絶対に臓器を提供したくないのですが。

- A. 臓器を提供しない意思は、年齢にかかわらず、口頭でも有効ですが、その気持ちがかちんと尊重されるためにも、日本臓器移植ネットワークの意思登録サイトに登録しておきましょう。
ここに登録しておけば、ご家族から臓器提供のお申し出があっても、ご本人の意思を確認し、提供しない意思が登録されていれば、絶対に提供されません。

意思表示について

Q. 臓器提供の意思表示をすることに年齢の制限はありますか？

- A. 意思を表示することには、年齢の上限はありません。高齢の方でも病気で薬を飲んでいる場合でもどなたでも記入できます。臓器を提供する意思表示は15歳以上が有効ですが、実際の提供については本人の拒否の意思が無ければ、15歳未満でも家族の承諾があれば提供が可能です。
また、提供しない意思表示については年齢の制限はありません。

Q. 意思表示をしていなかったら、臓器提供されてしまいますか？

- A. 本人の意思が不明な場合、家族の承諾で臓器提供が可能です。必ず提供されるわけではありません。
意思を表示していないと、臓器を提供するかどうかは、ご家族が判断することになりますので、家族が悩んだり迷ったりしないように意思を表示しておくことが大切です。

Q. 運転免許証や健康保険証に意思表示欄がありますが、記入しないといけないのですか？ 書き直しはできますか？

- A. 記入は任意です。一旦記入した意思を変更したい場合は、二重線などで消して、新たな意思がわかるようになっていれば書面による意思表示も有効です。再発行してもらうこともできます。(運転免許証の場合は有料)

Q. 「3. 臓器を提供しません」という項目があるのはなぜですか？

- A. 臓器提供に関しては、提供したい意思も提供したくない意思も尊重されます。昔の「ドナーカード」と違い、「意思表示カード」にはどの意思も表示できます。
臓器を提供したくないという意思も尊重され、その意思は残された家族にとって貴重な情報になります。本人にもしものことがあった時、家族が判断に迷わないためにも、臓器提供について大切な家族とよく話し合い、意思を表示しておくことが大切です。
3に○がついている場合、家族からの提供の申し出があっても、法律上、その方からは臓器の摘出をすることができません。

賛助会へのご協力ありがとうございました。

個人・団体会員で合計 **1,008,000 円** の賛助会費をいただきました。

皆様からいただいた賛助会費は普及啓発、事務局運営に必要な経費として支出しました。

●団体会員

(順不同、敬称略)

合計 **36 団体 720,000 円**

鳥取いなばライオンズクラブ	鳥取県腎友会	医療法人上福原内科クリニック
米子城山ライオンズクラブ	鳥取信用金庫	医療法人社団三樹会吉野・三宅ステーションクリニック
境港ライオンズクラブ	株式会社工ミネット	特定医療法人財団同愛会博愛病院
境港美保ライオンズクラブ	鳥取県立厚生病院	医療法人社団ミオ・ファティリティ・クリニック
米子グレートサウスライオンズクラブ	日本赤十字社鳥取赤十字病院	医療法人十字会野島病院
米子ライオンズクラブ	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	医療法人清和会垣田病院
鳥取中央ライオンズクラブ	独立行政法人労働者健康安全機構山陰労災病院	医療法人真誠会真誠会セントラルクリニック
鳥取ライオンズクラブ	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鳥取県済生会境港総合病院	医療法人明穂整形外科
鳥取久松ライオンズクラブ	南部町国民健康保険西伯病院	医療法人さとに田園クリニック
公益社団法人鳥取県医師会	日南町国民健康保険日南病院	のぐち内科クリニック
公益社団法人鳥取県看護協会	日野病院組合日野病院	医療法人ふなこし眼科ペインクリニック
一般社団法人鳥取県薬剤師会	医療法人社団魚谷眼科医院	医療法人三木眼科

●個人会員

合計 **112 名 288,000 円**

県職員	76 名	理事・監事・評議員	6 名	医師会	26 名	一般	4 名
-----	------	-----------	-----	-----	------	----	-----

●ご寄附をいただきありがとうございました。(順不同、敬称略)

境港ライオンズクラブ	110,111 円	浦木 誠一	10,000 円
鳥取中央ライオンズクラブ	8,000 円	坂口 由美	10,000 円

※うち20,000円はアイバンク活動

平成27年度 決算報告

平成27年度も鳥取県からの補助金、皆様からいただいた賛助会費、ご寄附、県債・国債の運用益、角膜等のあっせん手数料等により活動しましたのでご報告します。(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

経 常 収 益

(単位:円)

基本財産運用益	843,363
受取賛助会費	1,008,000
角膜等あっせん受取手数料	200,000
鳥取県受取補助金	14,934,311
(公社)日本臓器移植ネットワーク受取補助金	1,453,318
(公財)日本アイバンク協会受取補助金	225
受取寄附金	138,111
受取利息	1,171
経常収益計	18,578,499

経 常 費 用

(単位:円)

事業費	15,348,024
臓器バンク	13,965,745
アイバンク	1,382,279
管理費	3,085,534
経常費用計	18,433,558
当期一般正味財産増減額	144,941



全国同時
開催

グリーンライトアップ!

10月は臓器移植普及推進月間です

全国的に「誰かのために、できること。みんなで意思表示の輪を広げよう」を合言葉として移植医療への理解と意思表示の普及啓発活動を行います。移植医療のシンボルであるグリーンリボンにちなんで、各施設をグリーンにライトアップします。



■日時／平成28年10月16日(日)～23日(日) 18時～23時

■場所／鳥取駅前風紋広場、けやき広場、米子駅前米ッ子合掌像

期間中はグリーンにライトアップします

賛助会員ご加入・ご寄附のおねがい

当財団の運営は、基本財産の運用益と皆様からの賛助会費やご寄附による支援により行っております。当財団の活動に皆様の温かいご支援をお願いいたします。当財団の賛助会員にご加入いただいた場合、特定公益増進法人への寄附金として、金額により税制上の優遇措置が受けられます。(詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。)

当財団にご連絡いただければ、払込手数料が無料になる払込用紙を送りいたします。また免税申請をされる場合には、当財団発行の領収書と税額控除に係る証明書が必要となりますので、お申し付けください。

賛助会員会費

団体年会費 一□ 20,000円

個人年会費 一□ 2,000円

振り込み先

郵便振替 01350-5-92999

口座名義

公益財団法人
鳥取県臓器・アイバンク

腎臓移植についてのご相談

腎臓移植や移植医療についてのご相談やご質問に移植コーディネーターが为您解答いたします。

また、専門医師へのご相談も調整させていただきます。移植に関する素朴な疑問など、お気軽にお電話ください。

連絡先：TEL 0859-34-4809
(相談無料：受付は平日8:30～17:15)

専門医師(腎移植認定医)

杉谷 篤：米子医療センター臨床研究部長(外科医)
高橋 千寛：米子医療センター診療部長(泌尿器科医)

お知らせ

無料

講師派遣

県民のみなさまに移植医療について正しくご理解いただけるよう、鳥取県臓器移植コーディネーターを研修会・講演会に派遣しております。

職場、公民館、地域の会合など、どのような機会でも、短時間であっても可能です。

内容は、移植に関する法律や個人の権利、日本の現状や体験談など、ご希望に添い、移植医療を通じて「命の大切さ」をみなさまと一緒に話し合う研修を行っておりますので、ぜひご活用ください。



発行人

公益財団法人 鳥取県臓器・アイバンク TEL0859-34-4809

〒683-8504 米子市西町36番地の1(鳥取大学医学部内) ホームページ <http://www.zouki-t.net>

臓器・アイ

検索